

福島県 中学教育

発行所
 福島県中学校教育研究会
 責任者 亀岡 友博
 印刷所
 (株) 第一印刷
 福島市岡島字古屋館1番2
 TEL 024-536-3232

- 会長あいさつ..... 会長 亀岡 友博 (1)
- 総会祝辞..... 福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一 (2)
- 総会に臨んで..... 副会長 庄司 新一 (2)
- 平成28年度本会予算..... (3)
- 主題研修会に参加して..... 各分会参加者代表 (4)
- 平成28年度福島県中学校教育研究協議会県北大大会..... (7)
- 県北大大会をひかえて..... 実行委員長 神野 興 (7)
- 県北大大会の開催..... (7)~(8)
- 平成27年度中学校教職員研究作品の審査結果..... (8)
- 平成27年度中学校教職員研究作品優良作品一覧..... (9)
- 平成28年度福島県中学校教育研究会役員一覧..... 事務局 (10)

あ い さ つ

福島県中学校教育研究会会長 亀岡 友博



本年度の5月10日に開催されました「平成28年度第53回福島県中学校教育研究会総会」におきまして、会長に選出されました福島市立信陵中学校の亀岡友博と申します。副会長の皆様をはじめ各支部長、教科部長、事務局員の方々のご協力をいただきながら、吉田前会長のもと運営してきた本研究会の成果と課題を踏まえ、誠

心誠意本会の運営に努めて参りますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

原発事故等による影響が残る中、昨年度より相馬支部では、従前通りの活動を再開することができました。また、双葉支部でも避難先などの支部において活動を行うことができました。このように昨年度から全県的に活動ができたことは、相双地区の会員の皆様の努力と受け入れ先の支部の皆様の温かい思いやりあふれる対応があるからだと思えます。心から感謝申し上げます。

さて、会報に幾度となく引用されておりますが、県中教研設立趣意書には、「中学校教育を愛する者が愛する生徒たちのために自分に鞭うつその鞭を求めて集い、自分の学校の教育実技力を鍛え上げていこうと取り組む。」とあります。この結成の原点を常に意識しながら、本研究会の充実・発展を図るために、さらに工夫や改善を進めて参りたいと思えます。

今年度は、基本主題「確かな学力を身につけ、ふくしまの未来を創造する心豊かでたくましい生徒の育成」の2年次になります。昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、2年次の研究課題と研究の方向性を明確にして研究実践を推進します。10月12日には県研究協議会を県北地区で開催し、各学校及び各支部の研究成果を持ち寄り協議し、共有化を図ります。伊達支部の先生方が事務局の中心となり県北地区全体で準備を進めております。去る5月25日には、県北大大会の第1回実行委員会が行われ、開催に向けての準備が本格化したところです。県北大大会は、生徒休業日にし、先生方の一日研修日として実施します。県北地区の一般参加者にも意義ある大会になるようにしたいと思います。そのためには、各分会の研究協議会において一般参加者も交えて小グループで話し合いができるような運営方法の工夫をお願いします。

各支部においては、各専門部での研究主題1年次の研究実践の成果と課題をよく検証し、2年次の研究主題の具体的な実践に向けて、「教師は授業で勝負する」ことを肝に銘じ、教師としての情熱と使命感をもって実践的な研究に取り組まれることを切に願っています。

最後になりましたが、県教育委員会並びに各市町村教育委員会をはじめ関係機関の方々には、本年も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、これまで本会活動に多大なご尽力を賜りました吉田務前会長様をはじめとする退会されました皆様方に衷心より感謝を申し上げあいさつといたします。

福島県中学校教育研究会総会
福島県教育委員会教育長祝辞

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳 一



福島県中学校教育研究会総会が開催されるに当たり、お祝いの言葉を申し上げます。

本会におかれましては、昭和39年の発足以来、時代の急激な変化に対して、常に課題を的確にとらえるとともに、解決に向けた着実な取組を重ね、生徒の学力の向上及び心の教育の充実にも多大な貢献をされていることに対し、心から御礼申し上げます。

国においては、道徳の教科化や小学校3年生からの外国語教育の実施、また、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」として、「アクティブ・ラーニング」等の新たな学習・指導方法や新しい学びに対応した評価方法等の開発・普及等、次の学習指導要領へ向かっての動きが見られます。

県教育委員会といたしましては、第六次福島県総合教育計画に基づき、大震災からの教育環境の復旧・復興に向けた各種施策を総合的に展開し、未来を担う子どもたちが将来への希望や生きる喜びを実感できるよう、福島ならではの教育の一層の充実を図ってまいります。計画改定後4年目となる平成28年度は、学校、家庭、地域が目標を共有し、共に力を合わせチームとして福島県全体の教育力を高めていくという視点から、「躍動！『チームふくしま』」を推進テーマとして掲げ、様々な事業を展開します。

中でも、実施3年目となる「学力向上のための『つながり教育』推進事業」では、推進地域の学校・家庭・地域が課題を共有し、さらなる児童生徒の学力向上及び学習習慣・生活習慣の確立を図ります。また、先日実施された全国学力・学習状況調査の分析を早めに行い、子どもたち一人一人の支援に生かすことのできる「学力分析支

援ツール」を立ち上げております。各学校において効果的に活用し、児童生徒の確かな学力の育成に役立てていただきたいと考えております。

全国学力・学習状況調査の問題では、国語において、類似内容の資料の表現方法の違いを比べ、目的に応じて必要な情報を読み取る力を求める題材が出題されました。数学では、与えられた条件を基に、数量の関係を適切に捉えることや、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することが問われました。いずれも、学習指導要領における思考力・判断力・表現力等の育成につながるものです。各学校におかれましては、学習指導要領の趣旨と調査問題から求められる授業づくりのあり方を再確認し、効果的な指導の充実を図っていただくようお願いいたします。

福島県中学校教育研究会におかれましては、基本主題「確かな学力を身につけ、ふくしまの未来を創造する心豊かでたくましい生徒の育成」を設定し、ふくしまの未来を創造するための「知識、技能」「創造的な思考力、判断力、表現力」を含んだ「確かな学力」を身につけさせるとともに、社会と共生し社会に貢献するための「豊かな人間性」やたくましく生き抜くための「健康や体力」を育成するための指導法の工夫・改善に取り組まれると伺っております。

「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である。」という本会の設立の原点を踏まえ、ふくしまで学ぶ子どもたちが、「夢や希望の実現に向けた、たくましく生き抜く力」を身に付け、本県の復興と共に支え、共に歩んでいくことができるようお力添えをお願いいたします。

結びに、本会のみならずの充実・発展と本日御参会の皆様方の一層の御活躍を御祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

総会に臨んで

5月10日(火)福島県文化センターにて福島県中学校教育研究会総会が開催されました。

今年も本会の発足当時の設立趣意書について教師としての原点に立ち返り、改善・改革の情熱や使命についてふれられた挨拶がありました。戦後間もなかった当時と現代においては、世相も価値観も大きく異なっていますが“変化の大きい社会”という点では共通する社会情勢であることに違いありません。私たち教員がどのように教職を全うしていくべきかの指針でもあるように思えてなりません。今なお相通じる教師としての教育への気概に感じ入りました。

教員自らの主体性を導き出す魅力あふれる研修には、受容と共感・賞賛とともに、熟練した経験と発想を生かし生み出す新鮮さが求められているのかもしれない。間近に予想される大量退職・世代交代・年齢構成の変化という状況において、目前の愛する生徒たちの願いに応える術の拠り所となるのが本研究会であり意義そのものです。

午後からの支部長会においては、各支部における現状

福島県中学校教育研究会副会長 庄 司 新 一

について情報交換をしました。多くの支部から会員数の減少に伴う問題が出されましたが、支部の統合による組織や運営の見直し・改善を図った東西しらかわ支部の取り組み例や授業研究会に加えて各教科部会の創意を生かした研修活動の実施により、会員の意欲的な研究がすすめられている支部の取り組み例などについても紹介されました。困難な問題に思っても、多くの工夫により解決の糸口となる情報交換でした。

また、ワークブックの採用数減少についても話が出ました。本研究会編ワークブックは、これまでに著作権の問題等々大きな壁を乗り越えてきました。専門部の編集委員や県下各支部から選ばれた専門委員による検討・編集を毎年積み重ねているのは、本県中学校の学習状況を踏まえた日々の授業に密着した学習資料の必要性からです。各支部会員の意見を反映し、県全体として自主編集・刊行することによる教科理解・教材研究の深まりの意義は、本研究会の実践研究の成果の一端とも捉えられます。今後も趣旨の理解のもと、授業や学習活動を通して生徒への還元を図っていくべきであると感じました。

平成 28 年 度 本 会 予 算

収 入 総 額 8,037,868 円
 支 出 総 額 8,037,868 円
 差 引 残 額 0 円

1. 収 入 の 部

項 目	本年度予算額	27年度予算額	比較増減	付 記
会 費	7,590,000	7,590,000	0	2,300 円× 3,300 人
研 究 委 託 金	100,000	100,000	0	県中学校長会より
研 究 助 成 金	200,000	300,000	△ 100,000	公務員弘済会より
繰 越 金	147,568	128,842	18,726	
雑 収 入	300	300	0	貯金利息
計	8,037,868	8,119,142	△ 81,274	

2. 支 出 の 部

項 目	本年度予算額	27年度予算額	比較増減	付 記
1 会 議 費	1,680,000	1,730,000	△ 50,000	
(1) 総 会 費	850,000	900,000	△ 50,000	総会代議員等旅費, 昼食代, 要項印刷, 会場費
(2) 委 員 会 費	80,000	80,000	0	委員・理事合同会旅費, 昼食代
(3) 理 事 会 費	20,000	20,000	0	理事会旅費, 昼食代
(4) 事 務 局 会 費	30,000	30,000	0	事務局会旅費
(5) 主 題 研 修 会 費	700,000	700,000	0	主題研修会旅費
2 事 務 費	92,000	57,000	35,000	
(1) 通 信 運 搬 費	2,000	2,000	0	送料, 切手代
(2) 消 耗 品 費	5,000	5,000	0	プリンタインク, ファイル
(3) 印 刷 費	40,000	40,000	0	運営要覧その2, 用紙代
(4) 諸 費	45,000	10,000	35,000	会計監査会旅費, H 29 年度保険料
3 事 業 費	3,480,000	3,550,000	△ 70,000	
(1) 研 究 大 会 費	1,540,000	1,610,000	△ 70,000	支部69万 県北大会60万 大会要項・開催案内25万
(2) 研 究 調 査 費	605,000	605,000	0	専門部605,000 (55,000×11教科)
(3) 研 究 成 果 刊 行 費	715,000	715,000	0	専門部715,000 (65,000×11教科)
(4) 広 報 活 動 費	620,000	620,000	0	「中学教育」印刷代 (133号, 特集号, 134号)
4 支 部 活 動 費	2,740,000	2,740,000	0	各支部活動費
5 予 備 費	45,868	42,142	3,726	金種別払戻手数料, 支部会費返金
計	8,037,868	8,119,142	△ 81,274	



主題研修会に参加して



国語部会

二本松市立二本松第一中学校
田中 聡

今年度の主題研修会では、3ヶ年計画の第2年次研究であることを踏まえ、昨年度の研究の成果と課題を振り返りながら、研究副主題のとらえ方について活発に協議が行われました。

事務局からは、学習指導要領における「書くこと」の目標についての詳細な分析が示され、書く指導を充実させることの重要性についての提案がなされました。また、昨年度の研究を生かした学習活動についても活発に質疑が行われました。他者との相互交流を通して新たな考えを持ち、それをさらに深めたり広げたりすることで、書く力を高めさせるという授業作りを、各支部で追求していくことが確認されました。授業構想についても、教科書の「書くこと」の指導単元のみならず、指導の目的や身につけさせたい力を「書くこと」に焦点化することで、他領域の指導単元を有効に活用できるといった視点も示され、大変深まりのある協議となりました。

昨年度の「話すこと・聞くこと」に引き続き、今年度も表現領域での研究となるため、生徒一人ひとりの「伝えたい、表現したい」という思いを引き出し、高めていくことを意識して研究を進めることが何よりも大切であることを、改めて感じることができた研修会でした。

社会部会

郡山市立緑ヶ丘中学校
鈴木 文昌

今年度は「社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうすればよいか」という研究主題の2年次にあたり、副主題「根拠をもとに思考・判断する力を育てる指導の工夫」のとらえ方について、事務局より説明がありました。

各分野ごとの協議では、授業を構築する際のポイントである「資料選定・活用の工夫」、「学習形態の工夫」、「振り返りの工夫」に重点をおいて活発な意見交換が行われました。その中で、膨大な量の資料を教師が精選して生徒たちに提示していくこと、資料の1つである「新聞」を積極的に活用していくことなどが確認されました。

今回の主題研修会に参加させていただき、「よりよい社会を築くために必要な力」＝「主体的に考え行動する実践力」を高めるためには、中学生が主権者として社会で活躍するときに、率先して行動するための基礎力を養うことが大切であること、また主体的に立ち向かう力の基盤となるものが「自ら考え、判断する力」であることをあらためて実感することができました。

今年度も主題研修報告会を通して支部全体で共通理解を図り、研究主題・副主題にせまる授業実践を推進していきたいと考えています。

数学部会

須賀川市立西袋中学校
吉田 大将

今年度は「数学的活動の充実を図り、確かな学力を身につけさせるためにはどうすればよいか」の主題のもと研究の2年次になります。主題研修会では、改めて主題についての解釈や説明を受け、主題についての理解を深めることができました。また、今年度の副主題である「数学を利用する活動の工夫」についても、詳しい解説や実践試案の説明がなされ、今年度の研究を進める上で大変勉強になりました。

研究協議では、事務局から日常生活や社会における身近な問題と数学とを結びつけていく4つの活動について説明がありました。また、各支部からは実践例が示され、その中には教科書の章末問題や巻末に載せられているものも多くありました。日頃の授業実践の中で、身近な事象から課題提示することの難しさを感じていました。しかし、教科書の問題や教材を更に研究・実践していくことで主題・副主題に迫ることができると感じました。

主題研修会に参加して、どの教材を扱うのかではなく、その教材をどのように活用し、生徒にどのような力を身につけさせたいかを常に考え、授業実践していくことが大切であると再認識することができました。

理科部会

浅川町立浅川中学校
山田 宜彦

今回の主題研修会では、研究主題と今年度の副主題をどのように捉え実践すべきかについて協議がありました。

副主題にある“結果を分析して解釈する力”については、自然現象を従属変数（変化すること）と独立変数（その原因として考えられる要因）から捉えることが大切であり、このことにより制御する条件が整理され分析して解釈する力を身に付けることができるようになるとの説明がありました。

また、従属変数と独立変数の関係として捉えられない自然の事物・現象を扱う場合には、自然の事物・現象の共通点や相違点を生徒自らが見いだすことができる観察・実験を取り入れ文章でまとめたり、スケッチしたりして深めることが大切であるとの話がありました。

更に、アクティブ・ラーニングによる主体的、協働的な学びを取り入れることや、課題設定と日常生活を関連づけて扱うこと、副主題の1年次と3年次とのつながりを考えながら実践するようとの話もありました。

従属変数や独立変数等、普段聞き慣れない言葉が研修会では飛び交い、これまでの授業について考えさせられる研修会となりました。この研修会で学んだ内容を踏まえ、支部全体の研究推進にも努めていきたいと思えます。

音楽部会

三春町立三春中学校
阿久津 光 美

「幅広い音楽活動を通して、生徒一人一人の感性を磨き、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う指導はどうあればよいか。」という研究主題のもと、2年次となる今年度は、「音楽の豊かさや美しさを感じ取り、主体的に表現させる学習活動の工夫」を研究副主題として、各支部で研究を推進していくことになります。『主体的』というキーワードをもとに、前年度に身につけた音楽の基礎・基本を生かして、各支部で主体的に取り組む姿をどうとらえるのか明確にして研究を進めることが確認されました。

各支部の研究の進め方の発表や質疑応答では、アクティブ・ラーニングや、ICTの活用について、他支部の先生方の様々な実践を聞くことができ、大変参考になりました。特にデジタル教科書やタブレットの活用など、これからの授業の可能性を感じました。また、「主体的な学び」をさせるために、伝統音楽の体験授業を実践している支部もあり、貴重な情報交換ができました。

会員数の減少や教材に関する事など、課題は決して少なくありませんが、この研修会で確認された方向性をもとに、支部として研究主題にせまることができるように研究を進めていきたいと思えます。

美術部会

中島村立中島中学校
邊 見 和 則

昨年度、新たな研究主題が提示され今回の主題研修会では昨年の研究副主題についての研究実践が報告されました。各支部、各学校、各先生方の創意工夫と試行錯誤しながら授業や生徒との関わりの中から特色有る題材を新たに開発したり、地域独自の美術文化を掘り起こしたりするなど、それぞれの先生方が研究に真摯に向き合ってきた姿の見える報告でした。昼食の休憩時間にもそこかしこで熱心に情報を交換したり教育観を語り合ったりする姿も見られ、美術部会の先生方の熱気が感じられる研修会になったと思えます。しかし、中には支部の部員が少なく、講師の先生方が数校を掛け持ちで授業をしている支部の現状が報告されるなど、美術教育の厳しい状況の中で頑張っている実態の報告もあり、少子化や学校の統廃合など時数の少ない教科である美術が、授業の質をどのように維持していくか課題も出されたように思えます。

事務局からは2年目の副主題「自己実現を支援する指導の工夫」を研究の中核と考えているとの話がありました。今回の研修で感じたり得られたりしたことを支部に持ちかえり、今年もなお一層生徒たちのために研究を進めていきたいと思えます。

保体部会

金山町立金山中学校
我 妻 雄比古

本年度は、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、積極的に体力の向上と健康の保持増進に取り組ませる指導はどうあればよいか」という研究主題の2年次にあたり、平成28年度副主題である「運動の良さを実感し、主体的に運動や課題に取り組む態度をはぐくむ体育授業」について研究推進することを確認しました。

また、県中教研保健体育部長より「国のめざす保健体育」・「福島県の中学生の現状と課題」・「福島県中学校の保健体育授業のめざすもの」について資料を用いながら、わかりやすく丁寧に説明いただきました。

協議では、各支部で持ち寄った資料をもとに研究主題・副主題のとらえ方や研究の進め方についての説明と質疑が行われました。支部によって学校規模や会員数等の違いはありますが、その実態に応じて工夫した取り組みがなされており、よい参考となりました。

本支部では、会員数が年々減少している現状がありません。今後の会員増に向けて「研究の深まりと組織の活性化」を課題として掲げ、日々の授業に役立つと感じられるような実践研究をし、会員が増えるような魅力ある研修会にしていきたいと思えます。

技術部会

喜多方市立塩川中学校
平 田 憲 一

会員の少ない支部に所属しているため、数年間連続して主題研修会に参加させていただいています。校内でも同じ教科の教員はいないので寂しく感じることも多いのですが、この研修会では技術の教員ばかりで研究主題のことはもとより、日頃の授業実践について自然と話題になり、良き情報交換の場となっています。昼食時やお茶を飲みながらの会話でも「ものづくり」や「情報教育」「生物育成」に関する話がそちらこちらから聞こえてきてうれしくなりました。また、今年度は「ロボットフェスタふくしま2016開催(案)」について県商工労働部ロボット産業推進室の担当者より直接話を聞くことができ、それをもとに会員の間で情報交換が行われました。

本教科2年次の研究副主題は、「習得した知識や技術を適切に活用して課題解決する体験的な学習活動の工夫」です。事務局としての考えに加えてグループでの話し合いを基に各支部で研究が進められ、県大会で有意義な情報交換ができれば素晴らしいことです。研修(研究と修養)は教育公務員の特権であると若い頃に先輩教師から教わったのを覚えています。あれができないこれできないとダメと考えるより、現状で何ができるのかを考え、子どもの幸せを願い努力していきたいと思えます。

家庭部会

会津若松市立第四中学校
齋藤 禎子

今年度は、研究主題「社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力をはぐくむ指導はどうすればよいか」の2年目であり、「習得した知識や技術を適切に活用して課題解決する体験的な学習活動の工夫」を副主題に研究を進めていきます。研修会では、昨年度の研究の成果として生徒の実態把握には「アンケートの実施と活用」が有効であり、昨年度の取り組みで明確になった生徒の生活を取り巻く状況や既習の知識・技術の習得状況、個々の生徒の実態の把握を今年度も継続していく必要性を再確認しました。さらに、家庭科の授業や他教科など、幅広い分野から習得した知識や技能を活用し、生活者としての意識を高め、生活に必要な課題を解決していく実践的な力をはぐくむ学習活動についての研究の必要性を感じたところです。今後は授業の中で体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を取り入れ、教師側の手だてや支援、しかけを明確にし、工夫を凝らして研究を進めていきます。

学んだことを進んで生活の場で活用し、豊かな生活を創造できる生徒の育成を目指し、「魅力的な授業づくり」のために、これからも研修に取り組んでいきたいと思えます。

英語部会

檜枝岐村立檜枝岐中学校
嶋田 温子

昨年度からの「自らの体験や考えなどを互いに発信できるコミュニケーション能力をはぐくむためには、どう指導すればよいか」という研究主題のもと、今年度は「4技能を統合的に活用し、自らの体験や考えなどを発信する言語活動の工夫」を副主題に研究を進めていくこととなります。主題研修会では、各支部の研究主題・副主題のとらえ方や研究内容、方法などについて協議が行われました。

副主題については、発信型の言語活動を行うために、生徒の考えや思いを喚起するような課題設定やインプットを教師が提供することが大切であるということが話題となりました。また、昨年度の副主題にも示されていたCAN-DOリストについては、各校整備状況は異なりますが、教科書改訂に伴う見直しが必要であること、そして今年度の研究を進める際に活用していくことが確認されました。

主題研修会に参加し、研究の方向性についてさらに理解を深めることができました。各支部の取り組み内容も支部に持ち帰り、共有していきたいと思えます。英語を手段として活用し、自分の思いを相手に伝えるという言語の本来の役割を生徒が再確認できるよう、向上心をもって指導、研究を進めていきます。

道徳部会

新地町立尚英中学校
渡邊 秀一

今年度は、昨年度から始まった3年間の研究の2年目となります。研究主題である「ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか。」を「価値を高める発問と話し合い活動の工夫」の副主題によって研究を推進します。

研修会では副主題や、授業の展開等についての説明がありました。副主題にある「価値」は、道徳的価値そのものではなく、「道徳的価値の自覚」としてとらえます。また、今年度の副主題には「郷土」という言葉を含んでいませんが、生まれ育ったふるさとを大切に思い、未来を拓く生徒を育成するための主題に明確に迫るために不可欠なものです。さらに、「心が育つ」とは、心の働きを良くすることであり、行為の陰に隠れた、見えない部分を追求できる中心発問を設定し考えさせることが大切である、とお話がありました。

導入は簡潔にして基本発問は最小限に抑え、中心発問に時間をかけて考えさせる時間を十分に確保する。安易にグループで考えをまとめず、生徒の多様な考えをつぶやかせて全体で拾い合う。考えを深めるための追発問を行い、気づき合いをもたらすことなど、研修会で学んだことをこれからの授業で実践していきたいと思えます。

特別活動部会

いわき市立磐崎中学校
遠藤 匡

今年度いわき市の中教研特別活動の授業公開が磐崎中学校に割り当たり、今回の県の主題研修会に参加することになりました。今年度の研究副主題は「生徒会の一員としての自覚を高め、自主的・実践的な態度を育てる生徒会活動の指導」となっており、昨年度の学級活動の成果を受けての生徒会活動という流れになっています。

主題研修会では、県中教研推進委員の先生が準備してくださった資料などが充実していて、研究副主題を構造的にとらえることができました。また、協議なども論点をしぼって行うことができました。

生徒会活動が学級活動と大きく異なる点はやはり「異年齢集団」での活動であることがあげられます。この点については生徒会の各専門委員会の活動において縦割りの活動を取り入れていくという具体的な方法を知ることができ、見通しを持つことができました。

また、生徒会活動は生徒会教師に大きな負担がかかるという状態も各学校が抱えている共通の課題です。この点についても研究では留意して進めていく必要があることがわかりました。

研究の方向性がはっきりわかった今回の主題研修会の成果を今後の研究に生かしていきたいと思えます。

平成28年度福島県中学校教育研究協議会県北大会

県北大会をひかえて

県北大会実行委員長 **神野 與**
(桑折町立醸芳中学校長)



平成28年度福島県中学校教育研究協議会県北大会が10月12日に開催されます。福島支部で3教科と道徳及び特別活動、安達支部で3教科、伊達支部で3教科の授業公開を実施いたします。各開催支部の専門部長を中心に事前授業研究会や運営について話し合いがなされ、県大会

の準備が着々と進められています。今回の県大会においては、研究協議会当日を生徒休業日として、会員が研修に専念できるよう当該市町村教育委員会に配慮して頂きました。

さて、初任者研修や経験者研修Ⅱ等の悉皆研修は法令で定められた研修であり、教員の授業力向上及び資質向上に大きく寄与しています。一方で、今回の県大会を始めとする中教研における研修は、会員が主体的にそれぞれの部会に参加し、各専門部の同僚性を基盤とする極めて自発的な研修です。各専門部における部報もそれぞれの事務局を中心に会員の手により作成され、5月の主題研修会後の報告会を通して県内全体に研究の趣旨や内容が伝えられます。そして、夏の各地区の研究協議会や県大会後の報告会において、様々な実践が共有され、課題について協議したり、優れた実践に触れたりすることが

できます。このように、トップダウン的ではなくボトムアップ的な研修が中教研における研修のスタイルです。中教研の長い歴史の中で諸先輩が築き上げてきた仕組みを通して、私たちは教師としての力量を高めてきました。もし、中教研という組織がなかったら、同じ教科について語り合い、情報を共有する機会を得ることは難しいかもしれません。中教研があるからこそ、同じ志を持つ者が年1回の県大会に集い、授業実践の情熱と1時間1時間の授業の積み上げとその評価を共有することができるのだと思います。県大会を始めとする中教研の研修を通して、生徒にとって魅力ある授業が展開され、生徒が「わかる」「できる」を実感できれば、より確かな学力の向上にもつながります。昨年度の県中・県南大会の各専門部の要項や協議記録からは、知識・技能の習得を大切にしながらも、生徒主体の学習活動を展開し思考力や表現力を育成した事例が数多く見られます。その成果を引き継ぎながら、今年度の県北大会においても研究主題に迫れるよう努力して参ります。

最後に、常日頃から本中教研活動にご支援頂いている県教育委員会、開催地区教育委員会、県中学校長会に感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

福島県中学校教育研究協議会県北大会の開催

1 目的

本県中学校教育研究会の設定した研究主題について、各中学校及び各支部の研究成果を持ちより、全県的な規模において研究協議し、会員の資質の向上を図るとともに、本県中学校教育の充実発展に資する。

2 主催

福島県中学校教育研究会

3 共催

福島県教育委員会

4 後援

福島県中学校長会
福島県市町村教育委員会連絡協議会
開催地区内市町村教育委員会
(福島市・川俣町・伊達市・国見町・桑折町・二本松市・本宮市・大玉村)

5 協賛

公益財団法人日本教育公務員弘済会福島支部

6 期日

平成28年10月12日 (水)

7 会場

国語科 伊達市立桃陵中学校 (全体会)
伊達市立梁川中学校
社会科 福島市立北信中学校
数学科 二本松市立二本松第一中学校
理科 福島市立福島第三中学校
音楽科 伊達市立松陽中学校
美術科 二本松市立二本松第三中学校
保健体育科 本宮市立本宮第二中学校
技術・家庭科 福島市立信陵中学校 (技術)
福島大学附属中学校 (家庭)
英語科 桑折町立醸芳中学校 (全体会)
国見町立県北中学校
道徳 福島市立蓬萊中学校
特別活動 川俣町立川俣中学校

8 参加者

各支部代表会員、各支部専門部長及び県北地区会員

9 日程

8:30	9:00	9:20	9:30	10:20	10:35	12:00	13:00	15:30
受付	開会式	移動	授業公開	移動	研究協議	昼食	研究協議・閉会式	

(国語、理科、保体、英語は別の日程で実施。技術・家庭科は各会場で実施)

10 運 営

- (1) 本年度は、研究主題2年次である。
- (2) 各中学校において、各研究主題を本校の現職教育に取り入れ、具体的な研究実践を推進する。また、各支部において、各学校の教育実践の成果を支部研究協議会で共有できるよう計画する。
- (3) 各専門部会の授業数及び分科会数は次のとおりとする。

国 語 (3・3)	社 会 (3・3)
数 学 (3・3)	理 科 (2・2)
音 楽 (1・2)	美 術 (2・2)
保 体 (2・2)	技・家 (1・1・2・2)
英 語 (3・3)	道 徳 (3・3)
特 活 (2・2)	
- (4) 授業実施にあたっては、支部専門部あるいは県専門部との十分な連携のもと適切な授業研究に努める。また、支部専門部は、支部内における研究推進計画に基づき、授業実施に際しては組織的に支援する。

- (5) 開催地区においては、実行委員会を組織し、研究協議会の諸準備並びに運営に当たる。
- (6) 各専門部の責任者は、県専門部長と連携を密にし、適切な運営計画により事前の準備並びに当日の運営に当たる。特に専門部研究協議会は、研究主題及び副主題に沿って十分な協議ができるようにし、内容の充実を図るように努める。
- (7) 各支部代表参加者は、事前に必要な資料を提出する。提出資料の部数、期限等については、第1次案内及び第2次案内に明記する。
- (8) 開催地区(県北地区)においては、当日を休業日とし、地区内会員が各専門部会に参加できるように配慮する。

11 研究のまとめ

研究実践の成果を「研究集録」としてまとめ、各中学校に配付する。

平成27年度中学校教職員研究作品の審査結果

福島県中学校教育研究会研究推進部長 島 貫 条 司

平成27年度の各支部推薦教職員研究作品25点について、去る5月25日の第1次審査において、優秀作品5点を選出し、6月14日に第2次審査を行い、優秀作品5点の中から最優秀作品として2点を選出いたしました。

審査の内容及びその結果を報告いたします。なお研究内容、審査講評等は特集号において公表いたします。

1 研究作品の領域別出品数

国語1 道徳1 学習指導23 合計25点

2 審査の観点

- (1) 研究の構想
 - ・研究の目的
 - ・研究計画・方法
 - ・研究の理論
- (2) 研究の内容
 - ・実践の適切性
 - ・内容の一般化
 - ・資料の累積

(3) 研究のまとめ

- ・結論の妥当性
- ・研究成果の活用性
- ・表現や記述、まとめ方の工夫

(4) 研究の総合性

- ・研究の価値

3 審査員

- (1) 第1次審査
会長・事務局長・県専門部長(理事)・事務局員
- (2) 第2次審査
福島県教育庁義務教育課 主任指導主事 小野 聡 先生
福島県教育センター 指導主事 酒井 康雄 先生

4 審査結果

(1) 最優秀賞

No	支部名	氏 名	学校名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	郡 山	代表 味原 悦雄	郡山一中	学 習 指 導	主体的に学び、表現できる生徒の育成 ～表現力を育てる指導の工夫～
2	福 島	菅野美由里	福島四中	国 語 科	単元目標・言語活動・評価を1つにつなげる授業の工夫 ～「単元を貫く言語活動」を通して～

(2) 優 秀 賞

No	支部名	氏 名	学校名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	安 達	代表 鈴木 一高	二本松一中	学 習 指 導	自己肯定感を高める指導の工夫 ～学びの質を高める指導方法の工夫を通して～
2	郡 山	栗原 洋美	小原田中	道 徳 教 育	道徳のアクティブ・ラーニングを目指して
3	田 村	代表 佐藤 祐也	三 春 中	学 習 指 導	学年型教科教室の学習環境を生かし、主体的に学び続ける生徒の育成 ～生徒一人ひとりの学習意欲が持続する授業の実践を通して～

●—— 平成27年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 ——●

No	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	菅 野 美由里	福 島 四 中	国 語 科	単元目標・言語活動・評価を1つにつなげる授業の工夫 ～「単元を貫く言語活動」を通して～
2	福 島	代表 林 尚	西 信 中	学 習 指 導	生徒一人ひとりの学びを育てる授業 ～「基礎・基本を身に付け、伝え合う力を高める学習活動の工夫」～
3	福 島	代表 黒 須 智 則	平 野 中	学 習 指 導	一人ひとりの確かな学力を育む授業のあり方 ～良さを認め合える場面を生かした表現活動の工夫～
4	福 島	代表 荒 井 孝 祐	山 木 屋 中	学 習 指 導	確かな学力を身に付けさせるための学習指導の工夫 ～習得と活用を明確に位置付け、学び合いを基盤とする授業を通して～
5	伊 達	代表 湯 浅 英 生	県 北 中	学 習 指 導	「自ら学ぶ力」を育てる授業の創造 ～表現力豊かな学び合いと、自己調整学習を通して～
6	伊 達	代表 神 野 興	醸 芳 中	学 習 指 導	「自律的に学習する生徒」を育てる指導の工夫 ～学んだことを活用する力を高める指導において～
7	安 達	代表 鈴 木 一 高	二 本 松 一 中	学 習 指 導	自己肯定感を高める指導の工夫 ～学びの質を高める指導方法の工夫を通して～
8	安 達	代表 星 信 男	白 沢 中	学 習 指 導	確かな学力の向上を図る指導の工夫 ～教科の特性を生かした能動的学習を通して～
9	郡 山	代表 小 熊 博 治	緑 ケ 丘 中	学 習 指 導	互いに学び合う学習集団を育て、確かな学力を身につけさせるための授業はどうあるべきか。 ～コミュニケーション能力を高めるための学習過程の工夫～
10	郡 山	代表 味 原 悦 雄	郡 山 一 中	学 習 指 導	主体的に学び、表現できる生徒の育成 ～表現力を育てる指導の工夫～
11	郡 山	代表 長 沼 政 美	湖 南 小・中	学 習 指 導	豊かな人間力をそなえた子どもの育成 ～「『思い』を受けとめ、伝える力」～
12	郡 山	栗 原 洋 美	小 原 田 中	道 徳 教 育	道徳のアクティブ・ラーニングを目指して
13	岩 瀬	代表 安 斎 次 弥	稲 田 中	学 習 指 導	なりたい自分を目指して主体的に活動する生徒の育成 ～活用型学力の育成を目指した言語活動の充実～ 「より良く伝えるための表現活動の工夫」
14	岩 瀬	代表 佐 浦 雅 明	天 栄 中	学 習 指 導	確かな学力を育む授業の創造 ～授業での学びと家庭学習とをつなぐ指導を通して～
15	石 川	代表 岡 崎 寛 人	須 釜 中	学 習 指 導	自ら学び考えるための確かな学力を身につけた生徒の育成 ～基礎・基本の定着を目指した個に応じた指導を通して～
16	石 川	代表 有 賀 真 道	小 平 中	学 習 指 導	生徒同士が学び合い、高め合う授業づくり ～磨き合い、高め合う「学び合い」活動のあり方～
17	田 村	代表 佐 藤 祐 也	三 春 中	学 習 指 導	学年型教科教室の学習環境を生かし、主体的に学び続ける生徒の育成 ～生徒一人ひとりの学習意欲が持続する授業の実践を通して～
18	田 村	代表 高 橋 秀 章	小 野 中	学 習 指 導	夢の実現に向けて心を育み、主体的に学ぶ生徒の育成 ～言語活動の充実により、確かな学力の定着を図る指導はどうあればよいか～
19	東 西 しらかわ	代表 箭 内 清 和	白 河 中 央 中	学 習 指 導	確かな学力を身につける授業の創造 ～活用力を伸ばす授業の工夫～
20	東 西 しらかわ	代表 浅 賀 秀 寿	表 郷 中	学 習 指 導	学んだ知識を活用し課題を解決する力を育む指導はどうあればよいか
21	北 会 津	代表 矢 澤 良 伸	若 松 二 中	学 習 指 導	主体的に学びとる生徒の育成 ～言語活動の充実を図る指導を通して～
22	耶 麻	代表 長 谷 川 浩 文	高 郷 中	学 習 指 導	「活用力」の育成を図る指導の工夫 ～親和的な学習集団の醸成による、言語活動の充実を目指して～
23	両 沼	代表 井 上 佳 彦	柳 津 中	学 習 指 導	夢を持ち、今を頑張る意欲の育成
24	南 会 津	代表 坂 口 伸	館 岩 中	学 習 指 導	主体的に学び、自ら向上する生徒の育成 ～思考力・判断力・表現力を高めるアクティブ・ラーニングの工夫～
25	南 会 津	代表 星 裕 次 郎	田 島 中	学 習 指 導	学びの芽生えを促し自律的学習を育てる指導 ～活用する力を伸ばす学び方の指導～

● 平成28年度 中学校教職員研究会役員一覧 ●

役職名	氏名	学校名	郵便番号	学校所在地	電話番号	
会長	亀岡友博	信陵中学校	960-0241	福島市笹谷字島原2	024-557-6018	
副会長	神野 與	醸芳中学校	969-1661	伊達郡桑折町大字上郡字柳下5	024-582-3162	
	庄司 新一	大東中学校	962-0721	須賀川市雨田字芳ヶ平62	0248-79-3148	
	宇内 伸一	新鶴中学校	969-6403	大沼郡会津美里町鶴野辺字北三百蒨830	0242-78-2006	
	山野辺 藤夫	中村第一中学校	976-0042	相馬市中村字本町132-1	0244-35-2237	
	泉田 博巳	湯本第二中学校	972-8321	いわき市常磐湯本町上浅貝10	0246-42-2376	
監事	佐藤 毅	信陵中学校	960-0241	福島市笹谷字島原2	024-557-6018	
	有賀 真道	ひらた清風中学校	963-8202	石川郡平田村大字上蓬田字切山1	0247-55-2005	
	福本 隆	二本松第二中学校	964-0955	二本松市沖3-301	0243-22-1006	
委員	福島	亀岡友博	信陵中学校	960-0241	福島市笹谷字島原2	024-557-6018
	伊達	神野 與	醸芳中学校	969-1661	伊達郡桑折町大字上郡字柳下5	024-582-3162
	安達	福本 隆	二本松第二中学校	964-0955	二本松市沖3-301	0243-22-1006
	郡山	中村 隆志	片平中学校	963-0211	郡山市片平町字大笠松4	024-951-5895
	岩瀬	庄司 新一	大東中学校	962-0721	須賀川市雨田字芳ヶ平62	0248-79-3148
	石川	有賀 真道	ひらた清風中学校	963-8202	石川郡平田村大字上蓬田字切山1	0247-55-2005
	田村	森川 幸治	滝根中学校	963-3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247-78-2024
	東郷	大越 憲峰	白河中央中学校	961-0901	白河市明戸72-5	0248-23-3247
	北会津	宇南山 忠明	猪苗代中学校	969-3133	耶麻郡猪苗代町大字千代田字中島5-1	0242-62-3312
	耶麻	星 秀司	塩川中学校	969-3532	喜多方市塩川町字高道1551	0241-27-2021
	両沼	宇内 伸一	新鶴中学校	969-6403	大沼郡会津美里町鶴野辺字北三百蒨830	0242-78-2006
	南会津	橘 成美	檜枝岐中学校	967-0525	南会津郡檜枝岐村字下ノ原892	0241-75-2344
	相馬	山野辺 藤夫	中村第一中学校	976-0042	相馬市中村字本町132-1	0244-35-2237
	双葉	笠井 淳一	浪江中学校	964-0202	二本松市針道字堤崎25	0243-46-2302
	いわき	泉田 博巳	湯本第二中学校	972-8321	いわき市常磐湯本町上浅貝10	0246-42-2376
理事	国語	西牧 伸弘	岳陽中学校	960-8067	福島市須川町1-33	024-534-6171
	社会	大橋 誠寿	蓬莱中学校	960-8157	福島市蓬莱町五丁目14-1	024-548-5670
	数学	石川 幸男	西信中学校	960-2155	福島市上名倉字道上6	024-593-1049
	理科	金子 洋一	松陵中学校	960-1241	福島市松川町字上桜内3-4	024-567-2040
	音楽	高田 眞喜子	大鳥中学校	960-0201	福島市飯坂町字館11	024-542-4284
	美術	浅野 太平	福島第二中学校	960-8133	福島市桜木町5-20	024-534-2166
	保体	荒井 孝祐	山木屋中学校	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-538-1960
	技・家	高橋 卓夫	梁川中学校	960-0733	伊達市梁川町字菖蒲沢141-6	024-577-2161
	英語	黒須 智則	平野中学校	960-0231	福島市飯坂町平野字館ノ前3-3	024-542-3074
	道徳	工藤 裕也	飯野中学校	960-1301	福島市飯野町字西志保井1-1	024-562-2325
特活	二平 光明	立子山中学校	960-1321	福島市立子山字大稲場20	024-597-2311	
事務局長	高橋 賢司	渡利中学校	960-8141	福島市渡利字平内町106	024-523-5500	
総務部長	遠藤 哲	信夫中学校	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693	
同 副部長	二平 光明	立子山中学校	960-1321	福島市立子山字大稲場20	024-597-2311	
研究推進部長	島貫 条司	川俣中学校	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-566-4111	
同 副部長	大越 一也	福大附属中学校	960-8107	福島市浜田町12-26	024-534-6442	
刊行部長	佐藤 浩子	西根中学校	960-0211	福島市飯坂町湯野字大平2	024-542-4641	
同 副部長	工藤 裕也	飯野中学校	960-1301	福島市飯野町字西志保井1-1	024-562-2325	
一般会計部長	加藤 芳宏	吾妻中学校	960-2261	福島市町庭坂字原田8	024-591-1109	
同 副部長	二瓶 勉	福島第四中学校	960-8013	福島市南平5-8	024-535-4240	
研究調査会計部長	黒須 智則	平野中学校	960-0231	福島市飯坂町平野字館ノ前3-3	024-542-3074	
同 副部長	後藤 洋一	清水中学校	960-8254	福島市南沢又字清水端23	024-559-0085	